

海老名市立有馬小学校 学校運営協議会 議事録  
(令和7年度 第3回)

- 1 日時 令和8年2月5日(木) 9:45~11:45
- 2 場所 海老名市立有馬小学校 校長室
- 3 出席委員 小松 明 委員長、山口 慎二 副委員長、二見 隆江 委員  
村山 紀行 委員、奥谷 婦貴子 委員、小林 里実 委員  
住田 晶子 校長、内山 大輔 教頭、片岡 香子 総括教諭  
(欠席:北村 真理 委員)

4 会議の内容

(1) 学校長挨拶

住田校長:本日はお集まりいただき、ありがとうございます。

今週の2/6(金)と2/7(土)に学習発表会を予定している。本日は、授業や発表会の練習をご参観いただいた後、協議をさせていただきたい。ご協力をお願いいたします。

(2) 授業参観

(3) 協議

① これまでの学校生活の様子について

住田校長:前回の学校運営協議会から本日までの学校生活の様子を報告する。

~写真を映しながら、住田校長より、はるにれフェスタ、正月飾りづくり、地域清掃、書き初め、避難訓練等の報告~

② 令和7年度教育活動調査について

内山教頭:教育活動調査については、児童、保護者ともに学校のタブレット端末を使用して、回答していただいた。保護者については、児童が学校のタブレット端末を持ち帰って回答してもらった。ご自身のスマートフォン等で回答していただくほうが保護者にとっては便利かとも思ったが、回答ができない等の不具合が起きないように学校のタブレット端末を持ち帰ってもらった。保護者の回答率は、高かった。

住田校長:児童の結果としては、「安全に気をつけて、登下校をしていますか。」「友だちと、仲良くしていますか。」「家で、毎日宿題をしていますか。」の設

間で、よくあてはまる、ややあてはまるの割合が高かった。一方で、あまりあてはまらない、全くあてはまらないの割合が高かったのは、「困ったときは、先生に相談していますか。」「家で宿題のほかに、毎日学習をしていますか。」「家の人に学校や友だちのことを話していますか。」の設問だった。また、昨年の結果と比べて5ポイント以上の変化のあった設問としては、「授業の内容は、わかりますか。」が+5.3ポイント、「早寝早起きして、朝ご飯を食べていますか。」が+5.2ポイント、「家の人に学校や友だちのことをよく話しますか。」が-7.7ポイントという結果だった。

保護者の結果としては、「安全に気をつけて登下校している。」「楽しく生活している。」「学校・学年だより・配付物等を読むように心がけ、学校の様子を知っている。」の設問で、よくあてはまる、ややあてはまるの割合が高かった。一方で、あまりあてはまらない、全くあてはまらないの割合が高かったのは、「家で宿題のほかに、毎日学習している。」「PTA活動や学校行事に積極的に参加している。」の設問だった。昨年の結果と比べて5ポイント以上の変化のあったのは、「PTA活動や学校行事に積極的に参加している。」の設問で、-10.9ポイントという結果だった。

PTAについては、加入率は他校と比べても低くはないが、今年度からボランティア制にしたことで、このような結果になったと分析している。

小松委員長：親の生活様式が変わって、共働きが増えている。子どもと接する時間が少なくなってしまうことも一つの要因ではないのか。

二見委員：親は朝も忙しくしている。

住田校長：社会が変わって、親の生活も変わってしまったのかもしれない。

二見委員：有馬小の保護者の共働き率はどのくらいか。

住田校長：正確には把握していないが、以前と比べて増えていると思う。

山口副委員長：「家で宿題のほかに、毎日学習をしていますか」という設問があるが、塾で勉強している児童も入っているのか。

片岡総括教諭：塾に通っている児童はそれほど多くはないかもしれないが、家でデジタル通信教育をやっている児童はいると聞いている。

二見委員：PTA活動に参加すると、学校との距離感も近くなってよいと思う。

小松委員長：「家の人に学校や友だちのことを話していますか。」の割合が低くなってはいるが、一方で「友だちと、仲良くしていますか。」の割合が高いので、それほど困り感を感じていないとも捉えられるのではないか。学校がつまらないという回答が増えてくると心配にはなる。

住田校長：本校の児童は優しい子が多い。転んだ子がいればすぐに助けてくれる。学年関係なく仲良く遊んでいるところは、とてもよいと感じている。

小林委員：学校のタブレット端末で回答した話題が最初に出たが、自分の子どもは家にタブレット端末を持って帰ったときに、やり方を知っているからと

色々準備してくれた。

奥谷委員：子どもが学校のタブレット端末を持って帰って、親にやってもらう方が個人のスマートフォン等で回答するよりも、回答率があがるかもしれない。

小林委員：自分の子どもが学校で使っているタブレット端末に触れる機会にもなって、よかった。

住田校長：先ほど、「授業の内容は、わかりますか。」の割合が、昨年度と比べて5.3ポイント増えたとお伝えしたが、高学年を中心に交換授業やチームティーチング（TT）を積極的に行ってきた結果が出たのではないかと分析している。年度当初は、時間割を組む負担もあり、教職員も戸惑ってはいたが、実際に取り組んでみると、情報交換を密に行い、チームワークよく児童の指導や支援を行うことができたと感じている。

小松委員長：学び手側からすると、複数の先生から教えてもらうことが、児童にとってよい刺激になることもあるし、この先生の説明が自分にとって、わかりやすいということもあると思う。先生が協力して、チームになってやってくれることは、児童にとってはプラスになると思う。

小林委員：子どもは、先生によって授業の雰囲気が変わってくるので、毎時間スイッチが変わると言っている。よい刺激になっているようだ。

山口副委員長：このような調査は、有馬小学校だけで行っているのか。

住田校長：どの学校でも行っている。結果の公表については、今年度から、学校だよりで保護者や地域の方にお知らせしている。

内山教頭：調査については、小中一貫教育の取り組みとして、有馬中学校区の3小学校で同じ質問項目にしている。

### ③ 植樹祭について

内山教頭：株式会社ローソンさんの募金事業の一貫である学校環境緑化モデル事業に昨年度応募し、今年度実施することになった。地域の造園会社や村山委員のお力をお借りしながら、準備を進めているところ。児童から希望のあったサクラやモミジ、ハナモモ等を植樹する予定。完成式典を3月3日（火）に実施するので、委員の皆様もぜひご参加いただきたい。

住田校長：完成式典では、園芸委員会からのコーナーも企画している。

片岡総括教諭：園芸委員会では、クイズや草花を使ったアートなどの出し物を考えている。百周年の頃に当時の先生が作曲した『ハルニレ』という曲も流したいと考えている。

### ④ 「子どもたちの幸せのために」

住田校長：次年度の有馬小学校のランドデザインを考えている。今回は、委員さん方に「子どもたちが幸せに生きて行くために必要なことはどのような

ことか」について伺い、グランドデザイン作成の参考にさせていただきたい。

小松委員長：子どもの幸せとは、人とつながって自立することと考えている。そのなかで、学校には、自立できるようにするための学びの充実をお願いしたい。家庭では、自立するまでの環境を整えること、地域も互いに見える関係を築くことが自立する環境を整えることにつながると考えている。

山口副委員長：幸せのためには、周りの人のことを考えられる、他人のことを思いやれることが大切だと考えている。あとは、友だちがたくさんいること。大人になって地元に戻ってきたときに友だちがたくさんいることも幸せにつながると思っている。同じく、家族とのつながりも幸せにつながる。そのような、ふるさとがあるのが、子どもたちが大人になったときに幸せを感じられるのではないか。

奥谷委員：自己肯定感や自己効力感を上げるために、友だちのよいところを見つけたら、それを伝えてあげることで、自分が見えてくる。自分が見えてくると得意なことややりたいことが見えてくるのではないか。学校では、子どもたちが互いによいところを声に出して、褒め合うことができるとよい。家庭では、お腹が空いたときに、おにぎりが握れるなど、家にあるもので食事が作れるようになるとよいと思っている。地域では、知っている人には挨拶できるようにすることが大切だと感じている。

小林委員：学校では、多くの人と関わり合う環境づくりができるとよい。家庭では、子どもにとって、親は自分のことを見てくれている、認めてくれている存在であってほしい。安心感が得られる場所であってほしい。地域は、顔が分かる関係づくりができるとよい。

内山教頭：子どもたちにとって、できることが一つでも増えることが幸せにつながると考えている。学校教育のなかだけでなく、大人になってからも、できることを増やしていく生活を送れると、豊かな人生を送ることにつながっていくのではないかと考えている。

片岡総括教諭：学校は、家ではできない体験ができる場。その体験の中で、達成感や満足感を感じることができると、子どもたちは感動して涙を流すこともある。その時点で、子どもが幸せと感じていなくても、大人になって振り返ったときに、幸せだったと感じてくれるのではないか。家庭では、親が忙しいと子どもも安定しないので、たくさん話を聞いてあげて、安心できる場にしていきたい。安心が幸せにつながると考えている。地域については、有馬地区の人の温かさを感じている。また、同級生が地域にいて、今でもつながりが持てていることにも幸せを感じている。

村山委員：学校でできた友だちや仲間は、大人になってからも、よい関係でいられる。今は、できる限り話をして、仲間をつくっていくのがよいと思う。家庭では、子どもが親に相談できる、何でも話せる関係でいられること

が大切だと感じている。地域では、自分も朝の立哨をしているが、子どもたちはよく挨拶をしてくれている。他の人にも挨拶ができるようになると、よりよいのではないかと思う。

二見委員：大切なのは愛。そして、自分の子育ての経験から、将来働ける大人になることが幸せにつながるのではないかと感じている。学校は、一人一人に合わせた学習の場であること、安心できる空間であること、普段はできない体験活動ができる場であることが大切。家庭は、安心できる場であること、おいしいご飯が食べられる場であること、朗らかで安定した気持ちでいられる場であること。地域においては、地域力で子どもたちの見守りができることや学校への協力ができることよと感じている。

住田校長：学校では、一人一人の能力や長所を高めること、思いやりや協力の姿勢を育てること、粘り強さを高めていくこと、困ったときには助けを求められることが大切だと考えている。

今回、委員の皆さんからいただいたご意見を参考にグランドデザインを作成していきたい。ご協力、ありがとうございました。

#### ⑤ 次年度の学校行事計画の変更について

住田校長：次年度は、1学期のあゆみの「学習・学校生活の状況」欄への記載に代わり、個別教育相談で学習状況等をお知らせすることになる。

#### ⑥ 次年度の学校予算について

内山教頭：次年度の特徴のある学校づくり実践事業費については、稲作等の体験活動に係る経費をはじめ地域の方にご協力いただくための経費と教職員の研究に係る経費を主に計上している。予算については、3月の市議会で審議のうえ、決定されるため、決定事項については、次年度の会議でお知らせする。

#### (4) その他

住田校長：今年度で、委員の任期が終了になる。次年度は、新たな任期となるが、引き続きご協力をお願いしたい。